



# 陽気だより

No84

2014.3.15

●ホームページからも「陽気だより」

最新号・バックナンバーをご覧ください

<http://yotokusha.com/>

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和32年7月号 から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で65年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。



## 天分を生かせ

〔子に与う〕

柴田正一

(昭和三十二年当時 表統領室・教務課長)

### よい種をまく

明治時代の教育を受けた私は、いわゆる「桃太郎主義」または「立身出世主義」の話をたくさん聞かされた。

また、そのころ道の話でも、同じ桐でも箆(たす)に作られて奥座敷に飾らせるものもあり、下駄となつて足にはかれ、やがてスリ減つた時はゴミ箱に捨てられるものもある。丸太材でも床柱になるような丸太もあり、足場用に使われて、建前がすむと取り外されるものもある。だから桐なら箆筒になれ、丸太なら床柱になれと教えられた。

わち、大きくなつたら大臣、博士、金満家にならなければ男と生まれてきた甲斐がないとさえ考えていた。

お道のお話を聞かせていただいた今日になっては、毛頭そんな気持はない。どこでも与えられた天分を生かし、徳性に従つて、持ち場持ち場で日々明るい陽気ぐらしの生活をするとともに、人生の生き甲斐を見出し出すべきだと信じている。

このことは自分自身に言い聞かすだけでなく、私の子供たちにもそういうふうにあるように話もし、また実際に指導もしてきた。つまり、偉く「なれ」というようなことは一度も望んだことがなく、いつも各々の天分と徳性によつて、なつて来た理をよるこんで通れと話している。だから、外



見は大勢順応主義でもあり、放任主義とも見られると思ふ。

したがって、かつて私の家庭では親子の間で議論したこともなければ、争つたこともない。どう攻めてみても、要求してみても、子供は、本人の徳と理といんねんによつて、ある程度まで

は進んでゆくのであるから、親としては子供のために良いいんねんを譲り、徳を残してやるのが何より大切なことだと思つている。

特に、このせちがらといわれる世間で、多数の人の中に伍して生活をするのには、いろいろの難しいことにも出会うと思うが、そんな時でも判断を誤らぬ——すなわち理に則した正しい考えが心に浮かぶような徳を与えていたできたものと思つている。

### 原因不明の高熱

大東亜戦争で私の子供三人が出征した。長男は戦死したが、次男は昭和二十年九月、北支で現地除隊となり、私と一緒に翌年四月末、内地に引き揚げてきた。三男は内地の隊にいたので終戦直後、帰宅していた。

私と一緒に引き揚げてきた次男は、兄が戦死したのだから、当然、教会の跡を継ぐべき立場となつたのだが、本人は「お道はイヤだ」といつても、本人に本気で道をやる心がなくて、形だけ引きつけても、どうにもなるものではないと考えていたから、本人の心の向くまま、やりたいことをやれ」と言つたところ、本人はある税務署の採用試験を受け、その試験にパスしたので、月給取り生活を始めた。

すると、半月ほど勤めた時、突然、盲腸炎になり、急性で、すぐ手術しなければ命が危ぶましかしいと診断された。よろづ相談所附属病院で手術を受けたのは昭和二十一年七月のことだった。手術そのものは経過が順調だったが、一週間た

ってから原因不明の高熱が出て、だんだん苦しくなり、お医者さんも小首を傾げるようになった。本人も気を病んで、はじめて私にお助けをして下さいと口をきいた。私は言下に、

「私の跡を継いで、お道に専念すること」  
 と言ったところ、  
 「それでは税務署を辞めてお道一條になります」

と答えた。しかし私は、  
 「苦しい時の神頼みというよ  
 うな安直な考えでお道になっ  
 ても、少し苦しいことが起こ  
 ると逃げ出すかも知れない。

お道一條といつても、おまえ  
 のこれからの前途には山坂も  
 イバラぐるうもある。ここで  
 本当に、死んだつもりという  
 覚悟がなくては神様のお受け  
 取りはない」

と言いつ聞かせたところ、本  
 人も納得し、

「どんな苦勞があつても、こ  
 の病んで苦しむことを思えば、  
 私利私得を忘れて、親神様の  
 思召しに添うて通らせていた  
 だきます」

と決意を語った。すると、  
 不思議にも三日目にはさしも  
 の高熱もパタリと下がって、

間もなく退院の喜びを見るこ  
 とができた。

そこで、私は間もなく教会  
 長を彼に譲り、彼の手で、戦  
 災後そのままになっていた教  
 会の復興建築をさせたいと考  
 えた。単独布教の経験もない

若い彼に、わずかの建坪では  
 あるが、教会の建築をさせる  
 のは相当な重荷であることは  
 百も承知であったが、私が建  
 築を済ませて、その出来たも  
 のの上に安座したのでは彼の  
 将来があぶないと考え、あえ  
 てそうさせた。

一面無慈悲な親心のない親  
 だと思つたかも知れないけれ  
 ども、この私の親心は彼が成  
 人するにつれてだんだん判っ  
 てくると考えている。

普請もいろいろ苦勞があり、  
 行き詰つたこともあり、出来

た後に重荷も残つた  
 ことと思うが、泣き  
 ごととも言わず、なん  
 とか結末をつけたら  
 しい。

苦勞があつても、  
 その苦勞を踏み越え  
 てゆく力こそ、信仰  
 の賜物だといわなけ  
 ればならない。

三男、四男、そして  
 その家内たち、いづれ  
 も教師であり、教人  
 あるが、彼らは現在  
 は俸給生活をしている。

しかし、親神様に受け  
 取つていただけるよう  
 な日々のつとめが出  
 来ていたら、子供の  
 将来は決して心配す  
 ることはないと思つ  
 ている。

# 陽気ひめくり

教会名を入れると記念品に最適

文・筒井敬一  
 書・杉岡華山

絵・青山文治



記名無料サー  
 ビス (10冊以上)  
 お申込みの文面  
 を4cm×12cmの  
 厚紙に1色刷り  
 して下部にはり  
 つけます

定価=本体400円+税 送料200円

※ご注文は前払いとなりますので定価に  
 送料を加算して郵便振替にてご注文下さい。

## 人間がたすかる原理

「天の理」を解きほぐす

■道の教理を  
 「誠一つが天の理」「二一つが天の理」  
 「順序一つが天の理」「成ってくるのが天の理」の  
 四つのワク組みに整理することによって  
 「たすけ」のメカニズムが鮮明になってくる

中臺 勤治著 定価=本体1,300円+税 送料200円

好評発売中



### 月刊『陽気』定価改定についてのお願い

本誌は平成二十二年以来、出来るだけ安価でご  
 愛読いただきたいと定価を据え置いてまいりまし  
 たが、諸原価の高騰により経営努力も限界に達し  
 ました。

加えて本年四月から消費税率が八%に引き上げ  
 られるため、五月号より定価二百二十円(税込)に  
 改定させていただきます。

何卒、事情ご賢察の上、ご理解を賜りますよう、  
 つつしんでお願い申し上げます。

購読に関する問合せ先

☎ 0120-920-398

養徳社 業務部窓口

Facebook で最新情報をチェック! <https://www.facebook.com/yotokusha>

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。  
 <書籍・陽気のご購入方法について>前払いでお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号00990-3-17694番 加入者名(株)養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を発送させていただきます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社 業務部